

島の挽歌

松尾 匡

実はあたし日本人じゃないのよ。アロファ人なの。

フフっ、驚いた？ どこから見ても日本人だものね。

正確に言うと、出身はティムールスタンなんだ。そうそう、何年か前革命が起こったところ。そう、昔「ソ連」…だっけ、その一部だった中央アジアの国。よく知ってんじゃない。今まだまだごちゃごちゃしてるみたいだけどね。親きょうだいは生きてんだか死んでんだか…。

まあ、六つかそこらで別れたっきりだから、もうあそこにはほとんど何の記憶もないけどね。

…ああ、なんでこんなことばらしちゃったんだろう。フェトゥー殺されたときの追悼デモに出たって聞いたからかな。でも、あんなの出ただけでいいことしたみたいな気持ちになってる日本人は偽善者だって、あたし嫌ってたはずなんだけどね。

きっとあんたがあんまりいい男だからだ。…きっとそうだよ。

もちろんあたしは「南太平洋報復同盟」とかのテロリストとは何の関係もないよ。まあ、あの人たちの気持ちもわかるけどね。「先進国の強欲な生活のために、先祖伝来のつつましやかな自給生活をおくってきた我らが、なぜ国を奪われなければならなかったのか」っての、…まあ、ホントその通りだけど、「天誅」って言ってもね、植民地だったらそれで独立を勝ち取るってゴールがあるかもしれないけど、アロファ人の場合、テロなんかしたって、島が元通りに浮かび上がってくるわけでもないのにさ。

やっぱり、あたしの立場からすればね、移住資金のために身体搾り取られた身だからね、何言ってやんでえって気持ちはあるわよ。

そう、この国のネットウヨが勝ち誇ったようにいつも悪口のネタにしてるでしょ。「エロネシア・プロジェクト」。アロファ諸島共和国政府が、国が海に沈む前に国民の移住資金稼がなきゃならないって、世界から娼婦集めて、島一つまるまる使って大歓楽街作ったやつ。そん中でも目玉が、先進国中で取り締まりが厳しくなっていた児童売春ってわけだ。

これもね、ひどい話だって思うけど、ネットウヨの連中が言うかよって思うのよね。全く、ヒトを「土人」扱いするし、「二酸化炭素増加は化石燃料のせいじゃなかった」とか「地球温暖化は二酸化炭素のせいじゃなかった」とか「島嶼国が沈んだのは地球温暖化のせいじゃなかった」とか適当なことばかり言って、日本人は何も悪くなくて、アロファ人ばかり悪いみたいに書いてるけどさ、児童売春の一番の大得意先って、どこだったかって言うと、もう圧倒的に日本人だったんだからね。

だいたい、「エロネシア・プロジェクト」なんて構想持ち込んだコンサルは日本の会社だしさ、あたしがいた会社も、バーミューダかどっかの正体不明の持ち株会社が間に挟まっててわかんないようになってるけど、ホントはびっくりするような日本のご立派な大銀行やら大会社が出資してたんだからね。まぎれもなき日系企業だったわよ。

そんでさ、日本人向けの女の子見つけてくるのに目をつけたのが、渤海国とティムールスタン。どっちも破たんしきった独裁国家だったんだけど、独裁者に大金送って少女輸入したってわけだ。まあ独裁者にとっては願ってもない外貨収入だったことだろうね。

ティムールスタンって、ロシア系の白人とかトルコ系とかペルシャ系とか混血とかいろいろ住んでるんだけど、日本人そっくりの民族もいるんだよ。各民族フェチ用にいろいろ調達するには便利だったんだろうけど、特に日本人そっくりの女の子たちは重宝されたってわけだ。

って、あたしのことだよ。

「愛田れいか」って聞いたことない？

ない？ 全然？ それはあんたが健全で変態じゃないってことで、うれしいけど、うれしい半分、がっかり半分だわ。当時のあたしの名前よ。

あたし今でこそこんな立ちんぼやって暮らしてるけどさ、十四、五のころは会社のトップアイドルだったんだから。会社どころか島中のトップアイドル。あたしは客をえり好みできたのよ。あたしとヤレル日を夢見て、何回も飛行機乗り継いでやってきてはご機嫌とって、何も触れずに帰ってくバカな日本の男が行列作ってたんだから。

あのころ日本は不況だ不況だって言ってたはずだけど、よくそんな金と暇がある男たちがいたもんだね。あの島入るのは性病検査が厳しくてね、時間がか

かるからゲートの外に宿泊施設があるくらいで、「世界で一番清廉なホテル」って言われてた。ハハハ…、個室制で、部屋に許可なく二人以上いたら自動感知して警備員が飛んでくるのよ。…そんなんだから、ひょいと来てひょいと帰るわけにはいかなかったはずなんだけど、お客さんが年中ひきもきらなかつたわ。

あとで「愛田れいか」ってネットで探してごらん。画像とか動画とかいっぱい出てくるから。まあもうあれから三十年ほどにはなるし、ばれないように整形したからね、何の面影もないけど、当時は、自分で言うのもなんだけど、かわいかったと思うよ。動画見て変態になっちゃだめだよ。

会社はね、エロい水着着せてイメージDVD作って日本とかの先進国に売ってたの。ときどき日本でテレビに出たりどさ回りして撮影会したりもしたしね。DVDばか売れてたし、撮影会とかどこいっても満員だったし、会社はさぞかし大もうけしただろうね。もちろん「本業」の宣伝にもなったわけだ。十八歳超えたらアダルトDVDも出したぞ。そんなわけで、ネット上には当時のあたしがいっぱい残っているわけ。

そういえばDVDって言えばさあ、あの会社もっとエグいことしてたわ。

働き手の調達先だけどね、子供育てられない妊婦をアロファで出産させて子供を引き取るってことしてた。アロファの法律じゃ、アロファで生まれた子はアロファ国籍が自動的につくんで、母親の国の法律に縛られないわけだ。生まれながらにしてセックスワーカーになることが運命づけられた子どもたち。そう、女の子も男の子もよ。

こんなことに応募してくるのがまたひきもきらなかつたんだから、世の中どうなってんだか。特に日本の中学生とか高校生とかがね、もう墮ろせないお腹になって次から次とくるんだ。会社は念のいったことに、その子たちを使って、ビキニ着せて「中学生妊婦〇〇」とかってDVD作って売ってたわ。渡航費用と滞在費用と出産費用と出産後整形して別の校区に引っ越す費用と、全部会社がもっても、大もうけできたみたいだから、そんなの喜んで見る変態がいっぱいいいのよねえ。まったく。

でもときどき、胎児に情が移ってね、出産後子供の運命を思って抵抗する子が現れるそうだから、それ自体はまあまだ人間まともな気持ちが残ってるんだと思って救われるんだけど、結局契約をたてに無理矢理引き離しちゃうんだから悲惨よね。ついてきた親に「一生懸命育てるから」とか「まじめになるから」

とか泣き叫んで訴えるんだって。かわいそうにね。

ティムールスタンのことは、ほんとによく覚えてないなあ。なんかものすごく貧しくて、いつもお腹すかせていて、いつも父親が飲んだくれてた。何人もきょうだいはいたようだけど、よく思い出せない。

なんかある日、うちに知らない男の人が二、三人くらい来て、見たことないおもちゃ取り出して遊んでくれたんだ。で、お互いわかんない言葉で話してて。何日かあとで、その中の一人がまたうちに来て、この人についていくんだと言われて車に乗せられたの。なんか窓の外が土ぼこりでずっと白かったことばかり覚えてるわ。

空港についたらね、同じくらいの歳の子どもがいっぱいいてね、子どもだからすぐ仲良くなって、あたしもみんなも空港なんて見たことなかったし、もちろん飛行機乗ったこともなかったから、最初大はしゃぎしてたんだけど、飛行機に乗って、乗り継ぎもして、だんだん飽きてきたら、家族と離れたことを感じだして泣き出す子が出てきて、しまいにはみんな寂しくなってワーワー泣き出しちゃったの。

そばには、おねえさんが何人かいっしょに乗ってたんだ。言葉が通じないから仲良くなれなかったけど、そのおねえさんたちが、一生懸命あやしてるんだけど、言葉がわからないから効きやしなかった。あとから思えば日本語だったんだな。実は会社がこんなときのために、やさしい娼婦の先輩たちを選んでつけてくれてたんだけど、役に立たなかったわけだ。

あたしはね、うちにいいイメージが何もなかったのよ。ほんとに小さいころには母親には愛されていたんだろうとは思うんだけど、記憶はないのよね。物心ついてからの母親の記憶があまりないの。死んだって記憶もないから、出ていったのかなとも思うけど、毎日父親が昼間から飲んだくれてて、働いている感じじゃなかったから、母親は四六時中働いてて子供と顔合わせられなかったんじゃないかな。

あたし売るのだからって親父が勝手に決めて、母親が仕事でいなくうちに実行したんだって、あたし勝手に思ってるんだ。…そうでも思わないとね。

で、そんなんだから、あたしは何が起こったのか薄々感づいてたいたんだけど、別に寂しいとは思わなかった。弟や妹のことはちょっと思ったけど、「かわいそう」って感じかな。あたし一人自由になって申し訳ないって感覚。

そういう気持ちのせいでもあったんだろうね。目の前の子どもたちが、いつも手こずらされてきた弟や妹みたいに感じて、「ギャーギャー騒ぐんじゃないよ」って叫んじゃった。うん、もちろんティムールスタンの言葉でだよ。今じゃきれいに忘れちゃったから、正確には何て言ったか覚えてないけど。

そんでもって、あたしが音頭として、歌歌ったり、言葉遊びしたり、ゲームみたいなことしたりしてるうちに、みんな眠くなって寝ちゃったの。そのあと飛行機また乗り継いで、船に乗って、「エロネシア島」に着いたんだけどね、なんかそんなことで目を付けられたのか、大人たちに頼られたもので、こっちも得意になってその間周りの世話焼いてたの。

あたしたちは会社にとっては道具みたいなものだから、娼婦の仕事に関係ないことは、なああんにも教育してもらえなかった。ただ、世界各国の客の相手するわけだからね、言葉だけはいろいろ教えてくれたのは、まあ助かってるわ。もしかしたら、島沈んだあとで、いろんな国にいて娼婦で暮らせるようになって「配慮」だったのかな、フフっ。

一応、うちの会社は主に日本人向けだったし、あたしは日本名をつけて純粋日系人で売り出すことになったからなおさらなんだけど、島に着いたとたん、日本語漬けの毎日になったの。会社の施設内での「公用語」って言うか、「日常語」が日本語だったのよ。社員もほとんど日本人だしね。

あと英語も会話はだいぶ仕込まれたからOKだぞ。今もいつもネットでアメリカとかの番組見てるし。島内の公用語で、一応読み書きもできないと困るので、それなりに読み書きも教えてくれた。

それから、あたしが一番モテてた十四、五歳の頃までは、うちの会社は日本人客が圧倒的だったんだけど、そのあと中国人客がどんどん増えていってね、華僑系資本も進出してきたんだけど、うちの会社の店でもお客さんが増えてきたから、急遽みんな中国語を仕込まれたわ。あたしは幸い言葉を覚えるのはうまかったほうだからよかったと思うけど、もうそれくらいの歳になると、なかなか覚えられない子もいてね。あんな歳でむき出しの成果主義の競争社会だから、そんなことで指名順位が落ちていった子はかわいそうだったわ。

まあ別に当面食うに困るわけじゃないし、女の子が遊ぶところが何もない島だから、大人の娼婦と違って、もらえるおカネが減ることがそれほどいやだったわけじゃないのよ。順位が落ちると客を選べなくなるのがみんな恐怖だった

のよ。年端もいかない子供がおかしな変態どものされるがままになっていくのは悲惨だよ。

あたしのアダルトDVDって中国じゃもちろん売っちゃいけないものだったけど、なぜかあたしのファンがいっぱいいてね(笑)。待機リストに登録して別のところで携帯手放さないで遊んで、呼び出しがかかったら服抱えてすっ飛んでくるお客さんとかね、それはまだよくて、呼び出されないまま時間切れで帰国するお客さんとかね、いっぱいいたのよ。そんなお客さんが何人も、いつも海賊版でDVD見ている申し訳ないからって、大金のチップ置いていこうとするわけ。握手とかだけで帰した人もよ。

「うちの会社はチップ禁止で、島内で使うところもそんなにないし、口座にお給料じゃないおカネを入れてもすぐばれて没収されます」って中国語ブログで書いたら、いろいろプレゼントくれるようになった。いい人たちだよねえ。まあ、おかげで今、いよいよ食うに困ったときには、いろいろ売りつないでなんとか生きてきたわ。

あ、言葉の話をしてたよね。

おかしなことに、アロファ語はそんなに必要なかったな。まあ一応、簡単な日常会話はできるぐらいに教えてはくれたんだけどね。

「エロネシア島」って、アロファ諸島ん中じゃ別世界なわけ。あ、「エロネシア島」とか言ってるけど、ほんとの名前はなんだったかな。みんな「エロネシア」「エロネシア」って言ってたから忘れちゃった。

アロファ語とかあんまりできなくても、島の外には自由に出られないし、出たとしても何の交流があるわけでもないしね。「エロネシア島」の者は、現地の人からはだいたいは避けられていたんだ。自分たちの移住資金を稼いでくれるのに、何か汚いもののように扱われてたみたいない感じ。娼婦も職員たちも、しょっちゅう検査とかあって、世界で一番クリーンな身体だったのにねえ。

今じゃあの島も島じゃなくなってるわ。私たちはまだ水没する前に撤収したんだけど、あそこ立派な高層の建物がいっぱいあったからね。アロファ諸島共和国政府が国家の消滅宣言したあとも、エントランスがひたひたしてるけど、移住しなかった人とか、移住できなかった人とか、歳くった元娼婦たちとかが上層の階に居着いて、電気も水道もなしで漁だけで暮らすコミュニティができ

てるんだよ。飲み水とか野菜とか燃料とかはどうしてるんだろうね。

そういえば、さっき「ブログ」のこと言っただけで思い出したんだけど…。

子供がこんな仕事するんは、やっぱり誰かに恋でもして、その人に褒められたいと思うでもしないと、やってられないよ。しかも、親元離れてるわけだから、身近で世話してくれる人を慕っちゃうよね。あたしの場合もご多分に漏れず、ちょうど思春期に入った頃に担当になったマネージャーにほれたわけだ。

あたしまだ若い二十歳代とかの頃はさ、このときのことを思い出すのが腹立たしくて。だいたいほんとにいい人なら、最初からこんな犯罪商売してる会社入ったりしないじゃない。所詮仕事でやっているやさしさを本気にしてのぼせちゃって、結局会社のおカネもうけのために、うまいこと懐柔されてしまったって。あー、あたしのバカバカって思ってたわけ。そして、その人のことを、会社の手先の偽善者って思って、毎日憎んだわ。

でもね、だんだんわかってきたんだけど、仕事で担当した小娘一人のために、全人生をかけるわけにいかないのは当然じゃない。それでも、組織の縛りとか、制度の縛りとか、決められた大きな方向の縛りの中で、なんとか自分の自由の効く範囲で、目の前の人のためにせいっぱいの愛情をかけようっていう仕事の姿勢は、とっても大事なことだとあたし思うんだ。

いろんな縛りとか方向性とかはね、おかしいと思ったら、力のある人は変えればいい。勇気のある人は変えようとすればいい。でも、力も勇気もない人は受け入れるしかない。それは開き直っちゃおしまいだし、そういう自分を責める気持ちを心のどこかで持つておくことは大切なことだと思うけど、でも仕方ないことなんだ。ほとんどの人は弱いんだもん。それをもって他人を責めるのは、また別の抑圧になっちゃうんだよ。

力も勇気もないヘタレでも、いろんな縛りとか方向性とかを、おかしいと思いつながら仕方なく受け入れた上で、でも少しでも自分の自由の効く範囲内で、できるだけ良心的に人に接して生きている人は、この世にいっぱいいるんだ。そういう人が、この世を、ちょっとずつでもまともしているんだと思うし、いつが時期がくれば、大きく世の中を進めるモトになるんだと思う。

何の話だっけ。あ、そうだ「ブログ」の話だった。

実はあたしらは、読み書きは娼婦に必要なからうってことで、読み書き習っ

てなかったのよ。

ところが、十一歳かそれくらいのとき、そうそう、最初ちっちゃい頃は裸を見せるとか触らせるとかぐらいだったのが、だんだんやらされるサービスが「本格的」になっていって、そろそろ生理も始まって、「いよいよ」ってころよ。あたしの「ブログ」ってのが始まったの。ところがホントはあたしは字なんて書けやしない。会社の人勝手にそれらしく書いていたのね。

そしたら、お客さんがその「ブログ」に書いてあることを話題にするのよ。あせって適当に言い繕ったけど、困っちゃった。それで、そんなときのマネージャーに頼んで、その人のコンピュータいっしょに見ながら、更新ごとにその「ブログ」を読み上げてもらったの。あたしはそれを覚えて、お客さんと話を合わせるようにしたのよ。

ところがあたしその頃もう結構売れっ子だったから、DVDとか雑誌とかの撮影はしょっちゅうあるし、会社の行事もいろいろ入るし、ダンスの大会とか勝ち進んだりするし、島は観光客寄せにしょっちゅうイベントやってるし、その上に、風邪だとか台風だとか起こるんで、更新頻度けっこう激しかったわよ。なんだか毎日のように読み上げてもらうようになっちゃった。

そしたらね、そのうちカナはだいたい覚えちゃったわけ。漢字もよく出てくるのは覚えちゃった。マネージャーの人はそれ見てね、いろいろ字を教えてくれるようになった。わからない言葉が出てきたら、インターネットでいろんなサイトを見せて説明してくれた。そんなときはじめて、インターネットというものがあって、世の中にはこんないろいろなことがあるのかって知って感動したわ。

そしたらそのうち、その人が会社で話をつけてくれて、あたしたちみんなに日本語の読み書きの教育がされるようになったんだ。

そんなときに、島のダンス大会のジュニア部門で優勝してね、社長が何かごほうびに欲しいものがないかって聞いてきたのよ。それであたし、「コンピュータが部屋に欲しい」って言ったの。「ブログを自分で書きたい」ってね。

社長困っちゃって。あたしコンピュータってのは買ってきたらつながるものだと思ってたんだけど、あたしたちの宿舎には回線が引いてなかったのよね。はじめて仕組みを知って愕然よ。そしたら社長、あたしだけ回線の引いてある部屋に移してやろうとか、それが寂しければあたしの部屋だけに引いてやろう

とか言い出したわけ。社長としては好意だったんだろうけど、あたしはあたしだけってのがいやだったから断ったの。そして、宿舎に帰ってからみんな集めてね、ニセの「ブログ」のある子たちはみんな、客と話を合わせるのに困っているから、自分でブログ書くために、みんなの部屋に回線を引いてコンピュータを置いて欲しいって、集団で押し掛けたわけ。

そんなことしたもんで、すごい怒られて、罰を受けたものだから、オイオイ泣いて数日ふてくされてたんだけど、ある日社長がみんなを集めて、あたしの優勝のごほうびで、みんなの部屋に回線を引くことにするって言ったの。ただし、コンピュータは各自自分が働いてためた貯金の中から買えって。その代わりっていうか、全員に携帯電話が支給されて、そこからブログに書き込みができるようになったの。それで、みんな電子メールってもんができるってはじめで知ったんだけど、みんなお客さんとの連絡用のメールアドレスが割り振られてね。会社のチェックが入るんだけど、お客さんとメールのやり取りができるようになったのよ。

社長の話では、あたしのマネージャーが一生懸命主張してこうなったってことなんで、あたしすっかりその人にほれちゃったわけね。

それであたしはもうかなりおカネが貯まっていたから、それでコンピュータを買ったの。そしたらインターネットで一気に世界が広がったわ。どんどん漢字も覚えて、覚えたらおもしろいからいろいろ読む。読んだらまた覚える。

そしたら、あたしがいろいろ知識をつけるのを見てマネージャーも喜んでくれて、見かじったことについていろいろ詳しい話をしてくれたり、サイトの紹介してくれたり、興味深い課題を勧めてくれたりするようになったの。

それでいろいろなことがわかったわ。外にどんな国があるのか。いつもテレビの向こうに映ってる、あたしの客たちのいる日本ってどんなところか。ここは地球というもので、そこにはどんな生き物たちがいるのか。テレビとかお客の話に出てくる物語とか小説とかを読みまくり、時間を忘れてネットサーフィンしまくったわ。砂地に水がしみ込むとはこのことよ。

……そして、この島が何のためにあるのか、この毎日がお祭りのような楽園の島にどんな運命が待っているのか。それもわかっちゃった。……赤いランドセルしよったらお客がいつも喜ぶのはどうしてか。それは本来何のためにあるもので、よその世界では同じ年代の子どもたちは毎日何をしているものなのか。

あたしたちは、世界の子どもたちと、どんなに違った毎日をおくっているのか。それもわかっちゃった。

知らなかった方がよかった？…そうは思わなかったな。いろんなことがどんどんわかっていくのが純粹にうれしかったし、かえって「学校」とかいうものに行っていない分、ここは自分でやるしかないって思ったから。あたし、こんな世界を開いてくれたマネージャーが好きで好きで、もっともっと売れっ子になってあの人を喜ばせるために、あの人とつながっているつもりで、毎日仕事にはげんでいたのよ。

何年かして担当が変わったあとで、あの人か次の担当の子にも同じように親切にしてるのを見てね、ああやっぱり業務だったんだとがっかりしちゃった。

そんなときはね、あたしも一段大人になったんだぐらいに思って、じき立ち直ったんだけど、ずっとたって、撤収のどさくさのときにね、あの人か名前入りの昔の企画書を見たのよ。そのみんなに携帯電話配った件のこと。

「お客様とのコミュニケーション強化を通じたりピーター拡大プロジェクト」と題してあって、宿舍の部屋に回線引くこととか、携帯電話配ってブログ書かせることとか、電子メールを使った顧客との連絡とかについて提案してあった。まず、先進諸国からの「エロネシア」での児童などの人権状況についての批判、それを受けたアロファ政府からの圧力をあげてあって、次にこんなこと書いてあったのよ。「先だつての言語教育の充実はこの圧力をかわすために一定の効果を持ったが、今後この問題をめぐる国際環境はさらに厳しさを増すことが予想され、児童従業員の発達環境の一層の充実を示してみせることは対政府、対外政策上重要になることと思われる。」

それでね、ブログはファンを確保するために重要なツールだが、客と話が合わない逆効果になる恐れがあるって言ってね、ブログやツイッターを従業員本人に書かせることの効果ってのをつらつら述べてあるの。それで、回線を引く費用だとか、携帯電話の費用だとか、全室パソコンを置く費用だとかを細かく計算して、全室パソコン設置については費用に見合った効果がないって言って、それで何て書いてあったと思う？「島内には児童従業員の欲求の対象となるような支出の機会がないため、金銭による労働刺激効果を欠くきらいがある。宿舍全室に情報回線を敷設し、パソコンの設置が可能な環境にすることで、従業員に私費でパソコンを購入する誘因が生じれば、貯蓄のための労働刺激効果を持つであろう。」

そうそう。これ読んで怒りに震えたのよ。あたしの青春なんだっのって感じ(笑)。

でもね、今ならわかるの。あの文書自体が「タテマエ」なんだって。先進国や政府に対して、「人権尊重します」ってポーズを示すのは「タテマエ」なんだけど、それが「タテマエ」ですって言っている姿勢自体が実は「タテマエ」で、現場の「ホンネ」はやっぱり人権を尊重したいのよ。しかも先進国政治家の机上の「人権」じゃなくてね、目の前の子どもがちょっとでも幸せになるようにしたいっていう具体的な思い。まあみんながそうだとはいわないけど、だいたいの人はそうなんだと思う。

現場で、目の前の人の状況をちょっとでもよくしようと思っている人は、それを組織で認められる言い方で言わないといけない。そうじゃないと実現できないのよ。全部の部屋にパソコン置くような費用対効果がないことなんて、最初から当たり前じゃない。でも、それをそのまま言っちゃったら、じゃあ回線引く必要はありませんよねってことになる。そしたらあたしも誰も、そもそもパソコンを使えなくなるじゃない。図書室も何もなくて、この狭い島に閉じ込められた子どもたちの世界を少しでも広げるためには、何人かでもパソコンが使える可能性があるようにした方がいい。そのためには、「貯蓄のための労働刺激効果」って理屈を持ち出すのもありだわ。

もしかしたらね、他の人たちもみんなわかってたのかも知れないわ。「そんなこと言って、ホントはれいかにパソコン持たせたいだけなんだろ。ニヤニヤ」ってね。で、その気持ちに共感して、「タテマエ」を信じたふりをしたんじゃないかって気もする。だから今ではこの決定にかかわった人みんなに、ありがたいことだったって感謝してるのよ。甘いかなあ。

でもあの人については、あたしが今思ってるとおりでと思うのよ。だってニセ「ブログ」読んでくれるとき、いつも字一個一個指差しながら読んでくれたのよ。最初から、あたしに字覚えてもらいたいって気持ちがあったのよ。組織の縛りの枠内で自分のできるかぎり、愛情を注いでくれていたんだと思う。

あんたもそう思う？ そう思うよね。

だからあたしも今毎日そうしてるんだ。所詮立ちんぼで、食いつなぐための、一晩限りの付き合いなんだけど、その中でいつもそのときそのときの最大限の愛情を目の前の人に注いでるんだ。あんたにも愛情注いでるんだぞ(笑)。

感謝してるって？ うれしいわあ。あたしね、あんたもそういう人だと思うんだ。いろんな世間の縛りを受けた中で、自分のなんとか自由になる範囲で、目の前の人がちょっとでもよくなるように、ささやかかもしれないけど、できるかぎりの誠意をつくして毎日仕事している人。わかるんだ。あの人と同じにおいがするもん。あんたみたいにイケメンじゃないし、生きていたら今頃すっかりじいさんのはずだけどね。…においがするの。

そうだよ。明日もがんばろうね。

フェトゥーの話をしないとね。

あのこ、子どもの頃からの同僚で、歳も同じで一番の親友だったんだ。あたしと違って気持ちの細やかないいこだったよ。

「エロネシア島」って、日本から遠いし、入るのが簡単でないから、遊びにきたらお目当てのアイドルだけですます人はいないの。そしたらやっぱり一番たくさんいて安いのは現地ポリネシア系の娼婦だから、一回の滞在中、何回かはたいてい経験することになる。それで、ポリネシアンフェチの男ってのが、日本にもある程度できてたのよ。

それでうちの会社は、ポリネシアンフェチのロリコンというニッチマーケットを狙って、現地人の少女をおいてたのよね。フェトゥーはそんな中でも一番人気のアイドルだった。まあ美人だし、あたしよりよほど性格もよかったし、がんばりやさんで、とっくに物心ついてからきたのに、すぐに日本語ペラペラになったから、ポリネシアンフェチじゃないファンも多かったねえ。

あたしたちは、二人とも人気者のライバルどうしで、しかも大の親友で、撮影とかイベントとかもいっしょ、プライベートもいっしょのことが多かったわ。アダルトになってからもDVDの共演とかして、レズまがいのことまでしたぞ。

それがね、ペルー沖地震って覚えてない？

温暖化による海面上昇ってね、じりじりと同じペースで上がって行ってどこかで島に住めなくなるって話じゃないのよ。ときどき津波とか台風とか来たときの被害が、だんだん大きくなるって形で住めなくなるの。「国がなくなる」なんて、それ自体はほんとはそんなたいしたことじゃないわよ。こうやってたくさん人の命が奪われてしまう問題の方がよっぽど大きいわ。

ペルー沖地震のときの津波でね、アロファ諸島は今まで波が来たことのない高台まで流されちゃった。あたしたちの住んでるところは、高層の頑丈なビル

だから、警報があつてすぐみんな屋内に避難したおかげで、「エロネシア島」では死者はなくて、比較的小さい被害ですんだんだけど、ほかの島はひどかった。

フェトゥーの家族もね、全滅したのよ。

彼女、自分を売った親のことはそんなに同情してなかったんだけどね、きょうだいも死んじゃってね。特に、末の弟のこと、六、七歳にして母親みたいについていつもおんぶして、ミルクあげたりしてめんどうみてきたたらしいんだけど、彼女が十歳で売られてからもずーっとかわいがっててね、しょっちゅう手紙のやり取りとかしてた。

とつても頭のいい自慢の弟だったのよ。国が水没してからも苦労しないように、将来アメリカかオーストラリアの大学に行って勉強できるようにって、あのこ、お給料から彼の学資を貯金してたのよ。彼もその期待に応えてすごい成績優秀だったみたい。こんな苦労する民族をもうこれ以上出さないために、一生懸命勉強するんだって言ってたんだって。

あたしにも、きょうだいがいたはずなんだけどね。定期的に国には送金はされていたみたいだけど、ちゃんと渡ってたかどうか。大半政府がネコババしたと思う。実家に渡っても、おやじの飲み代に消えただろうな。

で、フェトゥーは、その弟も死んじゃったもんでね。一時は自殺でもしないかと本当に心配してたんだけど、実家のごたごた片付けて、店の復興手伝ったあと、店を辞めた。彼女ほら、日本語ができたから、やっぱり移住先は日本と決めてたんだけど、介護士の資格があると受け入れに有利って聞いて、弟の学資に貯めた金で、オーストラリアで日本政府が作っている介護士の学校に行くことにしたんだ。

で、そのあとこっちもいろいろあったから、やがて連絡とれなくなったの。あたし今度の事件ではじめて、フェトゥーって本名だって知ったわよ。ネットにいっぱい記録が残ってる娼婦の名前のままで、日本政府がよく受け入れてくれたわねと思う。あのこホントにがんばりやさんだから、誰も文句のつけようのない優秀な成績あげたんだらうね。

それで、日本で介護士の仕事して、職場で知り合った人と結婚して、子供も二人できて、幸せに暮らしていたわけだ。あたしと違ってね。…ほんと、ずつとひどい人生で、やっと幸せになれたのにねえ。

もともとこの日本というところは排外的なやつが多い国だったけどね、特に

ひどくなったのは、やっぱり「報復同盟」のあのテロ…丸越デパート爆破テロの容疑者のアロファ人たちが証拠不十分で不起訴になってからだよね。「政府が正義を守れないなら自分がやる」とか言って「新撰組」とかできて、元容疑者だとかその関係者だとかつかまえてリンチして。…まったく、「新撰組」が殺人するたびにネットで喝采の書き込みがあふれるってどうよ。だいたい大昔の新撰組って、外国人排斥派を取り締まっていた側じゃなかったっけ。

わかっていると思うけど、テロリストなんてアロファ人の中の、ごくごく一部よ。圧倒的多数のアロファ人は、移住地の人と仲良く助け合って暮らしていきたいと真剣に思っている。当たり前でしょ。そうじゃないと生きていけないんだから。

まったく、先進国の中で一番受け入れしづかってさ。アメリカとかからやいのやいの言われてやっと受け入れ決めて、枠が狭いって言われて叩かれてちょっと広げて、まだ狭いって言われて叩かれてまたちょっと広げて…いかにもしづしづ受け入れたんだけど、だったら最初からそうすればいいのに。諸外国からは、当然の義務を引き受けたがらない国って思われて評判落として、国内では外圧に屈していった屈辱感ばかり残して…。

今、日本はアメリカから、南洋人テロリストが多いとかいって叩かれて、マスコミじゃ捜査が手ぬるいからだと言わんばかりの言い方だけど、こんななんなの当たり前じゃない。もともとから就職差別はひどかったし、アパートなんかどこも貸してくれないし、こんな目にあったら、千人に一人ぐらいはやけっぱちになる人が出てもおかしくないわ。

で千人に一人がキレて爆発したら、ほかの九百九十九人も同類みたいにみなして、ますます暮らしから排除される。それでますますやけっぱちになる人が出る。それでますます排除される。…悪循環だわ。

でもね、どんなにこの悪循環がまわっても、圧倒的多数のアロファ人はテロなんか反対のままなのよ。

フェトゥーはね、絶対にテロなんかに賛成する人間じゃない。よくわかっていると思うけど、ネットウヨが「テロリストの一味」みたいに書き込んでるのは大嘘よ。でもね、彼女昔の知り合いが「新撰組」に迫られて助けを求めてきたときに、「はい」って「新撰組」に突き出すような人じゃないのよ。だいたい、一応不起訴になっててもう容疑者じゃない人を、しかも「報復同盟」のメンバーですらない人を、警察でもないそんな人殺し集団に突き出す義理なんて誰に

もないじゃない。

それを勝手にテロリスト認定してさ、白昼路上で捕まえて子供の目の前で集団リンチして殺すって、ほんとあいつら人間じゃないわ。

あんたデモの前の追悼集会から出てたの？ そう。フェトゥーのだんなさん、大げさに集会とかするのだいぶ嫌がってたらしいけどね。リンチなんて支持するのはごく一握りの者にすぎない、多くの日本人は、こんな蛮行を許してはならないと思っているし、アロファ人を隣人として受け入れて共に暮らしていきたいと思っている。そのことを、世界にみせつけなければならないって、アロファ友好協会の人とかに説得されて承知したんだって。それで開いたのが、あんまり人が来なかったら悲惨だったところだけど、あたしの予想よりはずっとたくさん集まってたよ。まだ救いがあるなって安心した。あんたもいいことしたよ。さっきの「偽善者」発言は撤回。ただ出るだけでもいいことだ！

フェトゥーのだんなさんの追悼で言ってたでしょ。覚えてる？

「フェトゥー、君は以前、僕らのわがままな暮らしのために住んでた島がなくなってしまったことをわびたとき、『でもそうならなかったら私たちは出会わなかった』って言ってくれたね。『あなたと出会えてよかった』って、そう言ってくれたね。うれしかった。僕もそのときは本当にそう思った…。

でもそれはやっぱり違ったんだ。フェトゥー、君は僕と出会う必要なんてなかった。君は、君の島の男と出会い、君の島の魚を食べ、君の島で子供を産んで幸せに暮らせばよかった。そして幸せに老いて、君の島の土に帰ればよかったんだ…。」

あたしはこれ聞いて、大声で泣き出したくなっただけどさ。リンチ事件のあと、ネットウヨどもが、「ドジンバイタ」とかすごいひどいことばかり言って、昔のエロDVDの動画いっぱい流しててね、そん中にあたしと共演したやつもあったのよ。あたしは整形してるし、歳はとってるし、公園の隅っこで小さくなって、帽子やら眼鏡やらマフラーやらでばれないだろうとは思ってたけど、でもあんまり声出したら目立っちゃうって、必死に声を殺して泣いてたわよ。

あのご昔あたしにも同じこと言ったわ。地球温暖化がなかったらあたしと出会わなかったって。そりゃ、温暖化がなかったら、あたしは貧しさの中でのたれ死にしてたかもしれないけどね。してくれたほうがあたしにとっちゃよかったんだけどね。でも悲しすぎるセリフだわ。

さっき言った大津波のあとでね、一段落ついてから、フェトゥーといっしょに休暇として、あのこの故郷の島に行ったの。丘の上で墓参りして見下ろしたら、人の命をいっぱい飲み込んだはずの海が、とってもきれいでね。「エロネシア」のビーチなんて徹底的に人の手を加えてできてるから、アロファに住んでるはずなのに、ほんとのアロファの自然の風景を全然知らなかったんだって思い知ったの。津波の悲劇なんて何もなかったように、空はコバルトブルーに澄み切って、エメラルドグリーンの海がキラキラ輝いていて…。

フェトゥーのだんなの言葉を聞いてたら、その光景が目に浮かんできたのよ。フェトゥーがあのだんなの砂浜に、かけまわる子どもたちという光景がね。

あのあと、アロファ人の人たちが挽歌歌ったでしょ。地に響くような歌だったよね。あの歌、津波のあとで、「エロネシア島」あげて津波の犠牲者の追悼会開いたときにも、現地系の人々が歌ってた。あたしアロファ語はほんと簡単な日常会話しかわからないから、意味が全然取れないんだけど、なんか伝わってくるものがあるんで印象に残っていたのよ。まさかこの歌を、紅葉のちり積もる東京の公園で聞くななんて思わなかったわ。

津波のあと「エロネシア島」は、じき復興したんだけど、やっぱり、その前の絶頂期の繁栄は取り戻せなかった。

津波のあと最初の島のカーニバルでね、子どもたちに水着着せるって言うから、どうしてかって思ってね。まさか会社が急に人道的になったとは思えないからね。…そしたら、世界からマスコミを入れることになったって。

ああ、あのね。「エロネシア島」は、撮影機能のある物は一切持ち込み禁止なの。島に入る前に全部預けなきゃいけない。携帯電話も駄目。撮影機能の付いてないやつをそこでレンタルしないとイケないのよ。

それは、欧米から児童ポルノの出どころってされて叩かれたら困るんで、政府が厳格にやってんの。…ってのはまあ、理由の一つではあるけど、いろいろ島の暗い側面を暴かれないようにって魂胆もあつてのことだとは思わ。

まあ、業務用の撮影機器はもちろんあるわけだし、島で住み込んで仕事している関係者は私物のカメラとか持ってるから、ポツポツ児童ポルノが世界に流れるのは止められなかったんだけど、まあそれは世界のどこでもそうだし、一応発覚するたびに取り締まりはしていた。

で、カーニバルの話だ。島が復興して盛り上がってる様子を世界にアピール

するために、今回はじめて世界中から取材を受け入れるって政府が決めたんだって。もちろん、世界に児童ポルノを垂れ流すわけにいかないから、未成年は隠すべきところを隠せてことになったわけ。テレビでもネットでも見られないから世界から人が集まってたって面があったはずなんだけどねえ。

実際には…あとで聞いたら前の年の七割の人出だったって。それでも始まった頃より人数は多いはずなんだけどね。伸びるときと下るときとは、同じ数でも印象が全然違うんだらうね。小さい頃からずっと、人が島中にあふれてにぎやかに熱狂してたイメージがあるけど、その年ははじめて、どことなく寂しく感じたわ。あたしはね、うちの店の山車のトップフロアのセンターを十年近く譲ったことはなかったんだけど、毎年見慣れた眼下の人波が、明らかにまばらに見えるわけ。なんかカラ元気出して踊り狂ったわ。

そしたらそのとき……この事件知らない？ 知らないのかあ。

昼間のパレードの山場の、島の真ん中の広場でターンするところでね、そこ絶好の撮影スポットで取材カメラがひしめき合ってたんだけど、あたしらの前のチームがそこに来たとき、演奏が止まって、一番前の列にパタパタっと人が集まって、アトラクションが始まったと思ったの。

それでね、あんまりキビキビして練習が行き届いて見えたから、遠いところから後ろから見降ろしてて、最初何の違和感もなかったんだけど、パパッと横断幕広げてね、真ん中で女の人が肩車に乗ってパネルを掲げた。そして、中の一人が英語でなんか叫びだしたら、観客たちの雰囲気はみるみる変わってくるのよ。

あたしは、何かともかく自分たちが目立っちゃいけないってことだけは感じたから、まだ何も気づかない下や後ろの同僚たちに、「演奏やめて！ ちょっとダンスやめて！」って叫んだ。

そしたら、静かになったら前の方で叫んでいる英語の中身がおぼろげに聞き取れてきたのよ。

あのね、「エロネシア島」のセックスワーカーは、形式的には三種類あるの。

大人のワーカーは、普通通りの雇用契約。だいたい、繁栄に引かれて世界中から流れてきた娼婦たちね。税金払って定期検診受ければいいんで、現地とか近隣系の人に多いけど自営でやってる人もいるし、そういう独立娼婦たちが協同組合で運営してる店もあったわ。

でもこういう自由意思契約で働けるのは、十八歳以上って決まっていたの。それは、欧米の未成年の子が勝手に流れてきて雇われたりしたら、自国民の児童が虐待されているって言って、たちまち国際圧力がかかってくるからよ。

それに対して、十七歳以下で「エロネシア島」でセックスワークしている子たちは、事実上はまぎれもなき奴隷。でもそうなんだけど、さすがにあからさまにそんな形式とるわけにはいかないわよね。

あたしらみたいな独裁国から輸入されたケースはね、一応「養子」契約なのよ。普通の国からこんなことしてきたら、子供を人身売買して性奴隷にしたって国際問題にされるけど、破たんした独裁国なら政府抱き込んでグルにすればいいし、国内にそんなこと問題にする命知らずもないだろってわけ。

だから、あたしたちは、そのときどきの社長を名義上「養い親」とする「養子」だったの。親権の強い現地の伝統と法律が悪用されて、「親の手伝い」ってことにされていたわけ。だからこのケースでは、十八歳になったら、養い親の後見がはずれるんで自由になれる。現地の慣習ではもっとはやく民法上の成人になれたはずだけど、さっき言った欧米の未成年雇えなくするための年齢制限とつじつまあわせるために、このケースは特別に法律で欧米にあわせて十八歳ってなってるのよ。まったく、勝手なところだけ現地の伝統を利用するのよね。

まあ、そうは言っても、十八歳になったとしても、今さらティムールスタンなんかには帰るわけにもいかないしね。娼婦以外何もできないように育てられたんだから、あいかわらず店に居続けるしかないわ。

アロファで出産させて、赤ちゃんをアロファ国籍とらせて引き取るのも、同じ形式ね。会社の「養子」。これは一応アロファ人なんだから、外国が文句をつけられないって案配だ。

それでもう一つ。もとからのアロファ人少女の場合、同じ「養子」形式のケースもあるんだけど、多くの場合は、親の借金の返済って形式ね。「女工哀史」みたいなもんよ。…「女工哀史」知らないの？ 何であたしが知ってて、生粋の日本人のあんたが知らないのよ。まったく。

フェトゥーはこれだったの。実質的には、親から買ってきてるんだけど、形式的には会社が親に金を貸して、子供が働いて返してるってわけ。これ、他の国でやったらやっぱり問題になるから、自分の国だけでやってた。もちろん大人の場合なら、借金のカタでやらされてる娼婦は、世界中からきてたけど。

こっちの形式の場合は、借金が返せたらいつでも辞めれるし、返せなかった

ら何歳になっても働き続けなきゃいけない。フェトゥーは人気者で稼いでたから、十五ぐらいの頃にはもう返しちゃったんだけど、弟の学資のためだけに働いてたのよ。

あたしみたいな独裁国からの輸入のケースでこの形式がとられないのはね、こっちの通貨から見たら無茶苦茶安く子ども調達してるからね。「借金」って形式にしたら、あつと言う間に返せちゃうのよ。一応、「親の手伝い」とは言っても、最低賃金ってもんはアロファにもあったんだからね。

誰の仕業なんだか、手の込んだことをよく考えたもんだと感心するでしょ。ところがだ。さすがの悪知恵でも想定してなかったことが起こったの。

日本でもそうだけど、親が死んだとき、親の遺産を相続放棄すれば、親の借金を引き継がなくてもいい。知ってるでしょ。アロファにも一応その決まりがあるんだ。

そしたらさ、例のペルー沖地震の大津波で、「エロネシア」にいるアロファ人少女にも、両親共に死んじゃった子がいっぱいいたのよ。さっきも言ったように、親権の強い国だから、親から借金返すために働けって言われたら働くのはいいことみたいにして正当化してたんだけど、その親がいなくなったんだからね。相続放棄すれば、はれて自由の身になれるわけだ。

あたし津波のあと、インターネットで調べたり、待遇改善運動とかやってる協同組合のねえさんたちと話したりして、そのことに気づいたから、自分の会社にいるそういう子には、みんなこのことは教えてあげたよ。でも、うちの場合はみんな、辞めても帰るところがないからって、店に残った。

まあ、そういう子は多かっただろうね。でも、島全体の中には帰るところがあった子がいたんだ。パレードであたしらの前のチームの店にいた、キャシーって呼ばれてた十四歳の子もそうだった。

その子は、両親はなくなったんだけど、成人したお兄さんが生き残ってたの。彼は相続放棄して、キャシーのこと引き取ろうとしたんだ。でも会社はそのことを彼女に知らせなかったばかりか、勝手に彼女の遺産相続の手続きをしちゃったのよ。

ところが、この会社は携帯電話とかも持たせてなくて、手紙も検閲してたんだけど、キャシーは親の葬式の時にお兄さんから概略聞いてたので、おかしいと思って、相続放棄の手続きをさせてほしいとか、お兄さんに電話させてほし

いとか、しまいにはお役所の人と話をさせろとか言うようになったんだって。それに対して、店の上の人は、どなったり脅したりして、やがて折檻するようになって、とうとうその末に死なせちゃったみたいなのよ。

会社側は、勝手に火葬して、店の子たちにもお兄さんにも、両親と弟妹が死んで悲しみのあまり自殺したんだって言ったんだけど、店の子たちはみんな経緯を聞いていたし、折檻されてたことにも気づいてたの。

もともとこの会社は、大人の娼婦たちの人使いも荒くて、暴力的で、低賃金な上にいろんなものを自腹にさせるんで評判悪かったんだけど、「養子」タイプの子どもに至っては、逃げられないことをいいことにメチャクチャしてたのよ。一応最低賃金を口座に払うけど、その口座は会社が管理してて本人は引き出せない。そして、罰金とか経費とかの名目でどんどんそこから引いていく。宿舎の自室で客とセックスするよう強要して、それはプライベートな交際だからって言って給料に含めない。…もうやりたい放題。

それで、セックスワーカーたちの不満が限界にきてるところだったのよ。大人のワーカーたちで綿密に示し合わせて、世界の目の前で悪行を暴露したってわけ。

それで、うちの店のみんなも事態をわかってきてザワザワしだしたとき、何もそんな絵になることとしてマスコミ喜ばすことないと思うんだけど、前のチームの店の用心棒たちと思うけど、ヤクザって言うほかない形相のゴツイ男たちが数人乱入してきたのよ。それを見て、こっちから見て手前の方にいた前のチームのジュニアたちが、逃げ出しでもするかと思ったら、「ノー」って、「ねえさんたちを殴るな」って、前に走りだしたの。

そのときよ。「あんたらは手をだすんじゃない」って英語で叫んで、うちの店の連中がね、バーって、雪崩うったように前に駆け出していくわけ。踊り子の娼婦も男も掃除賄いのおばさんも大所帯の人間が一斉によ。上から見ててすごい壮観！それで、みんなせっかく手間かけて作った飾りをぐちゃぐちゃにして、殴られても蹴られても次々と挑みかかって大乱闘してるんだ。

あたしは高いところから、ただ見てるしかない。見てるしかなかったのよ！

あたしはたまたま容姿と才能にめぐまれたおかげで、華やかな思いをしてきた。そう、ずっと山車のトップフロアにいて注目を浴びてきたんだ。それで、この島で働く圧倒的多数の人たちの、つらい毎日が、目に入ってなかったんだ。

眼下には、このハリボテの島の、このズルい世界の、くーだらな仕組みのせいで、しいたげられ、人間の誇りを踏みにじられ、搾取されている女たち、男たちがいる。そしてそのつらさを互いに自分のこととして感じあい、自分のこととして怒りを共にする女たち、男たちがいるんだ。それに気づいてこなかったあたしは今、高いところに置いてきぼりにされているんだ…そう思った。

とうとう用心棒たちは逃げ出していった。前のチームもうちのチームも、周りの観衆もごちゃごちゃに抱き合っただけで、大合唱采よ。

そして、マスコミ陣の前のマイクで、前のチームのジュニアが、涙ながらに日頃の仕打ちを訴える。ついで、うちの店のワーカーも発言する。あたしはうちの会社のいごこちは悪くはなかったんだけど、あたしの知らないところでこんなひどいことがあったのかと、はじめて知って愕然とすることが多かったわ。

その間に、後続のチームの人たちも、続々やってきた。そんでみんなして喝采送りーの、声援送りーの。そして次々発言を求めていったの。世界の前で明かされる、告発の声、声、声よ。

最後は、チームごちゃまぜになって、観客もいっしょになって、サンバ踊りながら、即興のシュプレヒコールあげてにぎやかにパレードしたの。あたしはようやく降りてきて、人波の後ろにくっついていった…。

政府はマスコミいっぱいの中で下手なことやって世界中から輦轡かいたくなかったんだろうね。昼の間は何も手を出してこなくて、ようやく夜になって武装警官の一隊が上陸して街を制圧したの。でも、基本的には、悪いのは全部それぞれの会社で、政府は何も悪くありません、いつも従業者の人権のために配慮してきました…ってスタンスを一生懸命世界にアピールしてたからね。拘束された人もすぐ解放されたし、キャシー事件の会社にはすぐに司直の手が入った。労働基準の強化も約束された。

そんでね。政府が言うのは、「養子」だろうが、会社に借金があろうが、セックスワークを辞めたければすぐに辞めていいことにしたい。…「します」じゃなくて、「したい」だけだね。それは、辞めていいって言っても、辞めてもうちでは面倒みきれませんということなんで、辞めた人たちに移住までの間、職業教育をする事業をやりたいから、ついては先進国は援助して下さいって。まあ、「先進国が児童売春やめろって言うならその分援助して下さい、もとはと言えばあんたらの責任なんだから」と言うのは、もともとずっとアロファ政府の常

套句だったんだけどね。

ところでさ、あたしの会社じゃあ、みんなして一応よそ様の従業員を集団暴行したことになるわけだし、会社の悪口を世界のマスコミに向けてしゃべった従業員もいるわけだから、どう処分するのかってことが問題になったの。

あたしは今度は腹くくらないといけないと思った。あの頃には、あたしはうちの会社じゃもう一番の古株になっててね、まだ二十歳代の半ばなのに「古株」ってのもへんだけど、年上のねえさんたちからも何かと相談されたりして、セックスワーカーみんなを取りまとめる立場になってたのよ。

それで、「事件」のとき文字通り「高みの見物」してたって後ろめたさもあつたしさ、会社のセックスワーカーみんな集めて、要求書を取りまとめて会社側とかけあうことにしたの。こないだの事件の関係者を一切処分しないこと。不利益な扱いをしないことってのがメインだけど、この際、日頃から思ってることを訴えようってことで、いくつか待遇改善の要求も並べたんだ。

もちろん、「養子」「借金」にかかわらず、辞めたい未成年は無条件に辞めさせろというのはトップに掲げたけど、実はうちの店の子はみんな、辞めてもどこも行くところないからここにいたいと言ってた。今後そういう子が出たときのためにとりあえず掲げたわけ。

実は一番みんなが熱心だったのが、「初物」マニアの変態に処女提供してプレミア料金とるサービスやってたのを廃止しろってこと。これあたしらの頃はやってなかったから、あたしはそんな歳頃になったら、痛くないように、あらかじめおねえさんたちに習って自分で少しずつ「広げ」て慣らしてたし、こっそり好きななじみ客と済ませてしまってた子もいたんだけど、このサービスが始まってから、「出血」しなかったら罰を受けるようになったのよ。あんまりひどいじゃないかってわけだけど、こんな要求認められても、恩恵受けるのってほんの少数だし、いやな経験した世代の子は、姑根性起こして後輩にも同じ経験させたがってもおかしくないのに、みんなが我がことのように子どもたちの「痛み」を共有して一生懸命だったわ。

それから、「痛み」って言えば、M仕事強要しないこと、M仕事OKって人はそれまでSM保険自己負担してたけど、会社の負担にすること、子どものM仕事は禁止することってのもあった。

集会じゃ、すぐにもストライキだって声もたくさんでたの。もともとあの島

では労働運動なんて押さえ込まれてたし、一応繁栄してたからね、大きな店に雇われてる大人たちは平均すればおカネの面ではまあまあだったから、あんまり労働争議とかなかったんだけど、津波後になると、客が減って給料減らされて、ポツポツとストライキも見かけるようになってたんだ。でも、あたしはとりあえず、交渉の結果が出るまで押さえてもらった。

実はね、あたしはこれが容れられなかったら、本気で会社を辞めるつもりだったんだ。それを言って勝てる自信があったわけじゃないけど、それなりのインパクトはあるだろうとは思ってた。

とか言って、あたしは別にヒトのために我が身を危険にさらしてたわけじゃないよ。会社辞めても娼婦以外何もできないけど、あたしは、十八で自由な身になってから、あっちこちの店から移籍の声がかかってたんだ。まわりがきょうだい同然に育ったんで別れづらくて残ってたの。さすがに二十歳代も半ばになるとひと頃の勢いはなかったけどね。でもまだいくつか話があった。

そんな中で一つだけ心がゆらいでたのがね、娼婦が協同組合で作っている店の一つなんだけど。ゆかねえさんって人がいてね…あたしたちをティムールスタンの空港に迎えにきた中の、お守役の娼婦の一人だった人だけど、ずっと目をかけてかわいがってくれたの。でも、大人になってから日本から来た人だから、なかなか言葉が覚えられなくて、ノーマルな日本人客だけが相手じゃ客層が狭くて待遇がよくなかった。

そしたら日本人向けで日本語環境のこの会社にしがみつきそうなもんだけど、あの人は思い切って会社を辞めて、独立自営の立ちんぼ生活を始めたんだ。いろいろ大変だったと思うけど、あえてそんな環境で暮らしたら、たちまち英語も覚えて、アロファ語もあたしよりずっとできるようになったわ。関西なまりが抜けないのを除けば完璧。

そしたらそのうち、街娼仲間と街角でアカペラゴスペル始めたのよ。そうやって観衆を集めて客を捕まえるの。あの島の通りは一面レンガ敷きで歩行者天国でね、街角には、ヌードとかで大道芸やっているいろんな人種の人が娼婦に限らずいっぱいいて、いつもあちこちで人だかりがして歓声がおこっていた。ゆかさんたちはそうやっておカネを貯めて、自分たちのお店を持ったの。店の前でアカペラゴスペルで人集めて客引きやってる陽気な店よ。

ところでね、政府は労働運動押さえ込んでたってさっき言ったよね。なにしろ「エロネシア島」は通貨は米ドルだから、自国通貨価値切り下げて値段下げるって手がとれないの。だからコスト高で物価上がったらモロ外国からの客足に響くと思って、賃金上がることを恐れてたんだ。

え？ いや、アロファの通貨はドルじゃないよ。「エロネシア島」だけが特別なの。なんでかって、あんたそのくらい自分で考えなさいよ。あたし？ もちろんわかってるわよ。米ドルにした方が世界から会社やワーカーを呼び寄せやすいし、それに「エロネシア」を国全体と同じタンガ通貨圏にしたら、繁栄の絶頂期とか、すごいタンガ高になって、コプラも魚も輸出できなくて壊滅して、エロしか売り物がなくなってたところだよ。「エロネシア」島内はほとんど輸入品だけで生きていて、タンガとか使わないで経済が成り立っているからドル圏にしているんだ。

まあこんな芸当、他の島ではちょっと就くにはばかられる種類の仕事だからこそできることだよ。普通の輸出品作るのにどこかの島をドル特区にしたら、賃金もドル表示の世界水準にちょっとは引張られるから、国中から人が殺到して、他の島がみんなからっぽになっちゃうよね。

えーと何の話だったっけ。あ、そうそう、賃金上がるのを恐れて労働運動を押さえてたんだ。だけど、労働者が協同組合作って自分たちで店を営むのはむしろ奨励してたんだ。島の大手業者が牛耳ってる島の会議所は、最初協同組合経営の店が現れるのを邪魔して、いろいろいじわるしたんだけど、政府は営業の自由を守れて介入したんだ。そりゃその方が、競争がおこって値段が安くなって観光客を呼べるってこともあったし、ワーカーが世界中から集まって、すぐ仕事しやすいようになるからね。

そしたら、島に労働組合とかないから、こういう協同組合の人たちが、島中のワーカーの労働条件の相談にのったりするようになったの。そりゃいろんな会社の労働条件がよくなった方が、あの人たちも競争が楽になってトクだしね。それに、この方式を持ち込んだ人たちは、もともと労働運動とかの経験のある人たちで、法律とかノウハウとか持ってたんだ。

ゆかさんたちも、協同組合の連合会に登録とかノウハウとか、いろいろ助けてもらって店を出したし、もともとメンバーにそういう志向の人が多かったから、やっぱり島の労働条件の改善とか、ひどい所から逃げてきた子どもの保護とか取り組むようになってたの。店にゲバラとかマルコムXとかのポスター貼

ってあったもんね(笑)。ほとんどファッションだけど。

あたし、ゆかねえさんが辞めてからもつきあい続けてたんだけど、そのうちアカペラ習いに行くようになってね。けっこうはまったから、お店ができてからもときどき歌いにいって、…寄ってきた客に「いや、この子うちの子じゃないんですよ」…って、まぎらわしいことしてたら詐欺だろうが(笑)！

まあ、そんなしてるうちに、さっきも言ったけど、あたし、うちの会社のセックスワーカーの取りまとめみたいな立場になってたから、いろいろ相談事を持ち込むようになってたの。

そんなことしてるうちに、ゆかねえさんから、店移ってこいと誘われるようになってね。みんなと別れづらいつて言ったら、引き連れてこいつて言うのよ。まあ、ゆかさんもだけど、そこのメンバーはみんな、かつぶくのいい現地系の人とか、スラッとしたすごくかっこいいアフリカ系アメリカ人の人とか、活動家としてはとっても頼れる人たちだけど、娼婦としてはもうトウがたちつつあったわよね。だからもっと若いスタッフが欲しかったんだ。各自自分で料金決めて自分で取って、店で共同にかかる費用だけみんなで出し合う方式だから、若い子がきても損することはないよって言うわけ。

ゆかねえさんは、あたしがティムールスタンから来るときの飛行機の中で、子どもたちを仕切ったのがよっぽど印象深かったみたいでね、しょっちゅう「感心したわ」なんて言うのよ。二十年近く言われ続けると恥ずかしさもなくなるわ。そんな話を持ち出して、「あんたはいつまでも人に使われてていい女やない」って口説いてくるのよ。

そんなふうに言われるといい気になって、心は動いたんだけど、あたしは、アダルトDVDとか写真集とかで日本のファンとつながっていたから、それが切れちゃうだろうなって思うと、ふんぎりがつかなかった。それで、ズルズル会社にいつづけてたんだ。

それで、要求が入れられなければ店辞めるぞって交渉に臨んだんだけど、なんと結果は、ほとんどの要求があっさり認められたの。

びっくりだったんだけど、実は当然だったのよ。辞めたい子はいつでも辞めていいとか、そのときの会社は、「希望退職ウェルカム」の経営状態になってたから、願ってもないことだったの。処女提供サービスの廃止だって、もう水没までカウントダウンだからここ数年小さい子どもの受け入れしてないので、会

社の損は実はあまりなかった。だから、十三歳までの間は初体験は客を選んでもいいというおまけまでついてきたのよ。

実はね、カーニバルでの事件のあと、世界中で「エロネシア」観光がイメージダウンしちゃってビジターが減ってた。しかもそれだけじゃなくて、ニュージーランドとか近くのちょっと大きい島国とか、飛行機の中継点になっている国に行くことも「エロネシアに行くんじゃないか」って疑われるってことで、観光客が減っちゃって、こういう国がネをあげて、路線を廃止するぞってアロファ政府に圧力かけてくるようになったの。だから島の会議所は、いずれにせよビジターは今後復活しない、戻ることなく減っていくってみてたの。それで、島の大手は密かに示し合わせて店を削減して、値段が下がらないように維持しようとしていたのよ。

そのとき一番困るのは、自分たちが店を減らしたのに、自分たちの管理できないところで誰かが勝手に店を増やしてしまっただけで元の木阿弥になることよね。

会社はあたしのこと密かに探りを入れててね、辞めるぞって脅しがハッキリでないことはわかってた。それだけでなく、あたしがまわりの人間を大勢引き連れて辞めるなり、辞めたあと大勢引き抜いていくなりして、協同組合店の供給能力を格段に増やすことになる可能性はかなり高いものと見ていたの。なんだからいぶん買いかぶられたものだって思うけど。

まあ、いずれにせよ要求が通ったことには違いない。めでたいことだわってわけで、結局あたしはそのあとも会社に残ることになったわけ。

ゆかねえさんはね、さっき言った、国家消滅宣言後も残った一人なの。もともとあたしにも言ってた。自分は娼婦しかできないけど、もうこんな歳じゃどこに行ってもどうせ食っていけないし、自分はこの街に育てられてこの街が大好きだから、最期はいっしょに沈むんだってね。しばらく前にテレビで取材されてて同じこと言ってた。ホントなつかしかったな。あたしはすっかり変わってこんな所でうずくまってるのに、あの人は前向きでたくましいところ、全然変わってない。

考えてみたらさ、あたしはあの頃いつもいつも、ほとんど年中無休で仕事ばっかりしてて、いつも客の待機リストが長々とあって、食事も睡眠もお酒もお菓子もお風呂も、誰かその中の、そのときの気分にあった人と、店の中でとっていた。高級ホテルみたいな娼館ビルの最上階で、真ん中のラウンジと四隅の

広いスイートルームを、客ごとに順に巡って…、ほとんどそれが全世界。

ゆかさんと話すと、いつも「よこしまな欲が作った、こんな偽りの街！」っていっしょに悪口言ってたんだけど、そんなこと、毎日街を見下ろしていただけたあたしに言う資格はなかったんだわ。

ゆかさんは毎日、街の長屋に住んで、街の屋台で食べて、街のパブで飲んで、いろんな人種が入り交じったあの街の人たちといっしょに、あの街をつくってたんだよね。あたしと違って、顔も知らない名前だけのリストの客じゃなくて、ゆかさんの場合は、逆に名前こそわからないけど、自分の客になるのかもわからないけど、でも生身の表情が確かにある、あの街の一部としてのビジターに楽しんでもらおうとして、毎日がんばってたんだよね。あんな、よこしまな偽りの街の不条理と、がっぷり取っ組み合ってた人こそが、本当はそんな街を愛し抜いていたんだ。

なんか一人で長々しゃべっちゃってごめんね。いままで誰にも隠してきたことだから、しゃべりだすと止まらなくなっちゃう。あと、あたしがどうやって日本にきたかって話だけさせて。

その後、「エロネシア島」では、失業も目立つようになって、もともと世界の歓楽街の中でダントツに治安がいいところだったのに、すっかり犯罪も増えちゃった。そしたらますます観光客がこなくなって…。

そんな感じで勢いが取り戻せないで一、二年うだうだしているときに、今度は大きな台風がきて、またもや高波でひどい被害が出たの。

これであたしのいた会社は、もうこれ以上やっても将来の事業性がないって判断して、「エロネシア」からの撤退を決めたんだ。まだ島の水没までにはだいぶ時間が残っていたんだけどね。

その前から、沈む前の船から逃げ出すネズミみたいに、日本人スタッフ職員にはポツポツ辞めて帰国する人が出ていた。足の速い娼婦も消えていたし。

撤退と決まって、もともと大人になってからきてたワーカーは、それぞれ母国に帰ることになった。ネイティブのアロファ人はね、寄付金をちょっと付けてさ、移住準備のためって政府がやってた職業訓練事業に引き取ってもらうことになった。まあ、正真正銘のアロファ人だから、いずれどっかの国の受け入れ対象になって、「エロネシア」が作った移住資金で、移住してしばらくは食べていけるわ。

アロファで出産させて赤ん坊のときに引き取った子たちは、うちの会社の場合ほとんど日本人だから、日本人との血縁が証明できれば日本国籍が取れるので、日本に移住できた。日本の国籍法は血縁主義だからね。

宙ぶらりんになったのは、あたしみたいに、独裁国から輸入されてきた人間よ。いくらアロファ国籍持っても、先進国はどこも、こんなニセ「アロファ人」を受けいれたくない。

特にあたしは純粋日系人として育てられたから、日本に行くのが一番いいんだけど、ただでさえ受け入れ枠なるべく狭めようとしている国だから、認められるはずがないわ。しかも、娼婦しかできることがないわけだし。

会社は「なんとかする」「なんとかする」って、何度聞いてもいつまでも同じこと言って、何も方策が思いつかないみたい。会社の事務所に通い詰めたけど、スタッフみんな自分の生き残りでせいっぱいって感じで、めどがついた人から次々辞めていく。手薄になって誰も文句言わないから、勝手に資料ひっかきまわして、何か手がなくなるとか、あたしの貯金はどうなるのかとか調べてた。

困り果ててあせってる時、そういえば昔のなじみ客の「りょうちゃん」が、「ガймショー」とか言ってたなと思い出したの。

その人ね、あたしが十四ぐらいのときから十八ぐらいの頃まで、相当あたしに入れあげてて、しょっちゅう日本から通ってきてた客なんだけど、もういい歳になってたのに、小娘に「りょうちゃん」なんて呼ばせて、まったく笑っちゃうわ。

「君の歳にずっとついて行ってロリコン卒業するよ」とか言ってたくせに、結局あたしが大人になったら全然来なくなったんで、やっぱりロリコン卒業できなかったんだな、とんだド変態野郎めって思った。

りょうちゃんに最初にあったのはね、十四ぐらいの頃に、店から言われて、同じぐらいの歳の女の子と二人で、島の港の高級ホテルの大きなスイートルームに行かされたときなんだけど、そこで、白人二人と日本人二人の男の人相手に乱交やらされたの。そのうち一人がりょうちゃん、あたしのこと気にいって次の日も逢いにきてくれて、それから顧客になったわけ。

その乱交のときにね、男の人たちがタバコを回して吸ってて、白人の人が自分が吸ったタバコをあたしに吸わせようとしたら、りょうちゃんが真顔で「やめとけ」って感じで止めたのよ。うちの会社じゃ大事な「商品」劣化させない

ために、ジュニアはタバコ禁止されてたからね、タバコ嫌いだったから助かったって思ったんだけど、あれ、あとでよく考えたらタバコじゃないよね。あれは何かのドラッグだよ。

ああ、あんたもそう思う？ これちょっとすごいことなんだよ。アロファ政府は「エロネシア」作ったとき、同時にドラッグが入ってきて国民が汚染されるのを極端に恐れてね、持ち込み検査は厳格を極めたの。いやもう、そもそも恥ずかしいことしにくるんだから、いまさらプライバシーも何もないだろってわけで、服の中も荷物の中も、撮影機器がないとかドラッグがないとか細かくチェックされる。出るときも、児童ポルノがないとか、現金ドルが持ち込んだのより多くなってないとか、厳しくチェックされるの。

だから、あそこでドラッグが吸えるなんて本来ありえないんだよ。いったいあれ、どんなレベルでセットされた会だったんだらうって。

それでその人のこと思い出して、「ガймショー」とか、聞いた当時は何のことかわからなかったけど、そのときにはもう十分わかってたから、この人に頼ってみたらなんとかなるかもって、メール送ったの。

「りょーちゃん!! れいかだよー。エロネシアのアイドル・れいかだよー。おぼえてるー？ おひさしブリッ、ブリリッ www

りょーちゃんが来なくなって、れいか寂しい。元気？ たまにはメールくらい下さい。

れいかの会社もうなくなるの、グッスン。れいかアロファ人だけど、ニセアロファ人って言われて、行くところないの。ひどーい!! どーしよー。ウェーン!! りょーちゃんヘルプミー!!!

P.S. りょうちゃんからもらったペンダント、今でも大事に持ってるよ。感謝、感謝。c h u ! ♥」

ハハハ…、言ってるうちに恥ずかしくなってくる文章だわ。これに、絵文字をいっぱいつけてデコデコにデコレーションしてね、もう二十歳代も半ばだというのに、バカみたいと思いながら、昔のあたしのメール文思い出して書いて送信したのよ。

でも返事がなかったからさ、ああもう昔のことだからアドレスも変わっちゃったんだらうなって思ってたの。

そしたらある日、突然社長に呼び出されて、部屋に入ったら、

「お前、どんな手をつかったんだ？」

って言われて。見ると日本のパスポート。写真が貼ってなくて、名前が「田中幸子」って書いてある。

「お前は、日本人『田中幸子』になって日本に行くことになった。」

それで、その日のうちにあたし、整形のために入院させられてね、あたしどこに行っても娼婦しかできないんだからあんまりへんな顔にされたら困りますって言ったんだけど、じみーなフケ顔にされちゃった。

あーあ「愛田れいか」は死んじゃったんだなって、あんまり心の整理ができないままだったから、なんかむなしくなって、鏡に向かって涙を流したわ。

それですぐに写真をとって、パスポートができ、大急ぎで身の回りを整理して島を離れることになったの。ばたばたと最低限の挨拶回りだけしかできなかったけど、みんな顔が変わったあたしに驚いて、でも別れを惜しんで、「がんばってね」って言ってくれた。いっしょにティムールスタンからきた一番古くからの仲間の身の振り先が決まってないのに、あたしだけ日本に行くのが心苦しくて、ごめんね、ごめんねって泣いて別れた。

そして、日本のパスポートでゲートをくぐって、飛行機に乗ったの。窓から島を眺めてね、あそこで暮らした二十年近くを、こんな形でばたばたと終わらせてよかったんだろうとか、ああ、ゆかねえさんといっしょに、あそこに残ればよかったとか、行き先決まらないままあそこに残されている仲間たちが不憫だとか、もういろいろ思っ、て、いますぐ戻りたくてたまらなくなって、涙があとからあとから流れてくるの。

こうしてあたし、日本人「田中幸子」として、日本に着きました。

あたしは日本じゃ、しばらくは、もといた会社のDVD販売のための日本の関連会社で事務をするってことになったの。前の会社の主な幹部社員もそこに移って、残務整理とかする部門作ってた。あたしは、別の、もともとそこにあった部署に配属されたけど、これとって仕事があるわけじゃなくて、飼いきれなもんだったわ。そこも、もう事業やってるってよりは、在庫整理みたいなことばかりで、たいして利益も出てないみたいなのに、何でタダで給料出してくれるんだろうと思っ、て。

そしたらね、こっち来てわかったんだけど、「りょうちゃん」って、びっくりするような大物の政治家になってたんだ。ロリコン卒業できたかできなかった

かは知らないけど、あたしに逢いにこれなくなったんは、そういう「レッキとした」理由があったんだ！

ウフフッ。与野党に五人ほどいるわね、「りょうちゃん」。外務省出身で絞りこんでもなぜか三人も残るわね。さあどれでしょう。

って、ヒ・ミ・ツ。絶対言わないから。ワーワー質問は何にも受け付けません。はい、駄目駄目、何聞かれても一切答えないから。もうこの件はおしまい。いいわね。

つまり、社長たちは、あたしを手元においとくことが、政治的に何かの役に立つって判断したようなんだな。

実はね、りょうちゃんに出したメールの追伸で、もらったペンダント今でも大事にしてるって書いたって言ったよね。あのペンダントは、おーっきいサファイアに金の鎖がジャラジャラついてて、あたしが十八歳になった誕生日に、法律上成人して自由の身になったお祝いってことで、りょうちゃんがプレゼントしてくれたの。あたしはただ単に、そのこと忘れてないよ、今でも感謝してるよって言うておけば、印象よくなるだろうってぐらいに軽く考えてメールに書いておいたのよ。

そしたら何年かあとになって、食うに困ってこのペンダント売ったときにわかったの。あたしそれ売ったカネで、なんとか一年は食いつなげた。そんなすごいもんだったんだ。そんなもん、十八の小娘にやるなよって思うけど、あれは現金で買うものじゃないね。カードか、口座引き落としのローンだ。つまり記録が残ってる。裏の刻文に日本語があったから、日本で買っているはずで、たとえ現金でもあんな買い物は必ず足がつく。

あれもらった当時、あたしは純粋にうれしくて、りょうちゃん喜ばそうと思って、アダルト記念のあたしの最初のヌード写真集撮るときに、あれつけて撮ってもらったのよ。ヌードにつけると、鎖が肩に広がって、まるで「ウルトラマンなんか」みたいになるんだけど、撮影スタッフの人たちがみんな「きれい、きれい」ってすごく褒めてくれるから、とっても気分よかった。

喜ばすどころか、あの写真集日本中でバカ売れしたから、りょうちゃん肝つぶしたろうね。今でも探せばどっかで必ず古本が出てるよ。何万円とかで売ってるはずよ。

だから、あたしが現物をマスコミに持ち込んで、この写真集を見せたら、りょうちゃんはもう何も言い逃れができないってことになるわけだ。

そう。あのメール、立派な脅迫だったのよ。…そんなつもり全然なかったのに。「したたかな女だ」とか思われたかなと思うと、ほんと心外だわ。

でも、りょうちゃんが中途半端に小心な人だからあかし助かったのよ。もうちょっと大胆だったり、もうちょっと小心だったりしたら、あかし抹殺されても不思議じゃないわ。

あたしの住民票は、DVから逃げてきたということにして用意されてたの。ほんとにそんな身の上がぴったりの顔になってたから、笑っちゃったわ。新しい職場でも、事前にそんな話を通してあったらしくて、前どこにいたのかとか出身とかを全然詮索されなかったから助かった。

そんなふうにしてひっそりアパートと会社の間を通う生活も悪くはなかったんだけど、でもそのうち結局会社は解散してね、社長の力も落ちてどうにもならなかったんだろうね。

もっとも、あかしはその前に、自分から会社を辞めてた。実は、会社が管理してたアロファ人「レイカ・アイダ」名義のあたしのドル預金が、いつの間にか消えてなくなってたのよ。どうも会社を清算するための資金に使い込まれたみたいなんだけど、はっきりわからないし、警察にも裁判所にも訴えるわけにもいかない。いくら抗議しても泣き寝入りするほかないってわかったから、頭にきて辞めちゃったの。

そしたら後日、りょうちゃんの代理って称する人が接触してきてね、真昼にいっぱい人目につくところを選んで会ったんだけど、あのペンダントを買い取りたいって言ってきたの。そりゃまあすごい金額で。

残念ながらあかしはもうあれを売っぱらったあとだったんだけどね、あかしは言ったのよ。あれは信頼できる知り合いのところに預けてあって、もしあたしの身に何かが起こったらマスコミにばらすよう頼んであるって。

あーあ、いよいよもってしたたかな女って思われたらうね。そんなふうと思われたくないんだけどねえ。ひよっとしたら、社長、自分のやったことがやましくて何か話をつけて、りょうちゃんが好意で言ってくれたことかもしれないって気も、ちょっとだけするのよ。

まあ、そういうわけで命永らえていることができていたんだけど、あのあと人生いろんなことがあって、危ない目には何回もあってきたからね。全然身に覚えのないのに「田中幸子」の死体が出たりしたら、りょうちゃんやっぱり肝

つぶしてたことだろうね。

あたしはそのあと、あちこち転々として、いろんなことしようとしてもがいてみたけど、やっぱりあたしは娼婦が性に合ってるよ。持ってたもの身ぐるみ全部売っぱらっちゃって、すっからかんになって、結局こんないい歳こいて、こうして立ちんぼで生きることになったわけだ。しょせん娼婦にしかなれないように育てられた身なんだからねえ。

あーあ、とうとうこんなことまで言っちゃった。

あたしもう別の街に移ることにするよ。いや、あんたのこと信頼してないわけじゃないんだ。誤解しないでね。もともと、そろそろこの街も潮時だねえって思ってたんだ。だから、今後あたしのこと探して見当たらなくても、心配しなくてもいいよ。

長々と聞いてくれてありがとう。何で全部しゃべっちゃったのかねえ。やっぱり、あんたがとってもいい人だってわかったからだよ。長年いろいろ経験してね、一つだけ身に付いたんは、いい人か悪い人かってことが、ちょっと話ただけでわかるってこと。

ほんとだよ。悪い奴はたしかにいる。そいつらは許しちゃいけない。つきあわないですむなら、つきあわないほうがいい。けどほんとに悪い人なんて思ってるほど多くないんだ。たいていの人には、もともとは「好きならば他人にやさしくしてやろう」って思ってる。だけど、普通の人には小心なだけ、損をこくのが怖いだけ。だから、世の中の仕組みが悪いせいで、仕方なく人を踏みつける行動をとっちゃう。ここで、開き直ったり、それでもいいことをできた人に嫉妬したりするから、だんだん悪い人になってっちゃうんだ。そこで開き直らないで、「いつか好きならば他人にやさしくしてやろう」って思いつづけている人が、いい人なんだ。

さっきも言ったよね、あんたもそんな、いい人のおいがするんだ。だからお互い、明日もがんばろうね。

…って、もうとっくに「今日」か。つい話が長くなっちゃって、いい人に報いるどころじゃないよね。仕事つらくなるよね。ごめんね。…さ、もう遅いから寝ようね。…おやすみ。